

ガラスの魅力を発信する 「秘密基地」



代表の杉岡詩麻さんは、もともとガラスに興味があつた訳ではなく、就職したザ・グラス・スタジオでの販売の仕事からガラスの世界に足を踏み入れました。テレビで見たことのある会社だという軽い気持ちで働き始めましたが、毎日、現場でガラス作りに携わる職人たちの姿を間近に見ていると、毎次第にその世界に惹かれていったといいます。当時は見習いがとても多く、自分が制作側に入る余地はなかつたものの、「やつてみたかったな」と今になつて思うほど、ガラス制作の仕事は見えていても楽しく、魅了されたものだつたそうです。

その後、市内土産店に勤め、ガラス専門店の立ち上げにも携わるようになりましたが、2011年

奥沢十字街から天神に抜ける国道393号（若松線）沿いにあるGlass Studio SHiMA・SHiMAは、訪れた人から「なんでも出てくるドラえもんのような場所」と言われるほど、道具や素材が所狭しと並んでいます。ここではガラス細工のほか、サンキャッチャー（クリスタルガラス製のパーツ）を用いて作成したインテリアアクセサリー作り、型紙を使ったワーケーションなども不定期で行われ、最大10人まで参加できる賃やかな空間のガラス工房です。

○ガラスとの出会い

工房では、吹きガラスとは違う技法で、ガスバーナーにガスと酸素を注入し、温度が1,200℃（1,500℃）になる青い炎でガラス棒を溶かし、回転させながら形を整えていきます。彩色は色が付いたガラス棒や粉状の色ガラスを使用します。ガラスが溶けているときにガラス用ピンセットでつまむことで、気泡を入れることもできます。最後に窯でゆっくり焼成することで、割れにくい作品になります。

また、ガラス板に粉状のガラスを振り掛けて焼成し、表面を溶かしてつやを出したり、あえて溶けきる手前で焼き止めて凹凸感を残したりと、温度と時間の調整でさまざまな表情を引き出しています。

作品はアクセサリー・サンキャッチャー・お皿など、日常で使える小物を中心に制作しており、これまで50種類以上の作品を作つてきました。全て手作りなので同じ作品はなく、手に取つてお気に入りの作品を購入いただけます。

に母親が倒れたことをきっかけに退職しました。前職ではガラス制作も行つてきましたが、雑用的な仕事も多く、自分でもつと自由にガラス作品を作りたいとの思いから、2014年11月に創業しました。

○ガラス作り

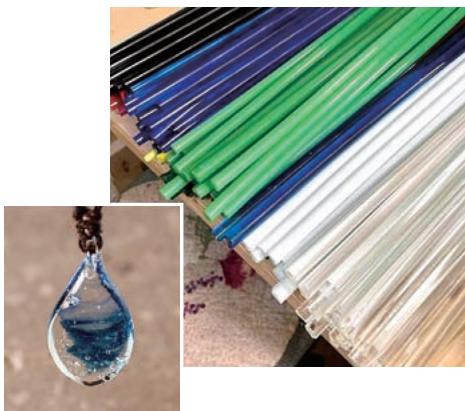
工房では、吹きガラスとは違う技法で、ガスバーナーにガスと酸素を注入し、温度が1,200℃（1,500℃）になる青い炎でガラス棒を溶かし、回転させながら形を整えていきます。彩色は色が付いたガラス棒や粉状の色ガラスを使用します。ガラスが溶けているときにガラス用ピンセットでつまむことで、気泡を入れることもできます。最後に窯でゆっくり焼成することで、割れにくい作品になります。

また、ガラス板に粉状のガラスを振り掛けて焼成し、表面を溶かしてつやを出したり、あえて溶けきる手前で焼き止めて凹凸感を残したりと、温度と時間の調整でさまざまな表情を引き出しています。

作品はアクセサリー・サンキャッチャー・お皿など、日常で使える小物を中心に制作しており、これまで50種類以上の作品を作つてきました。全て手作りなので同じ作品はなく、手に取つてお気に入りの作品を購入いただけます。



日本の伝統・開運文様『麻の葉』(魔除け、厄除け、繁栄の意味もある開運文様)をモチーフにした贈り物に喜ばれている「麻の葉」シリーズ



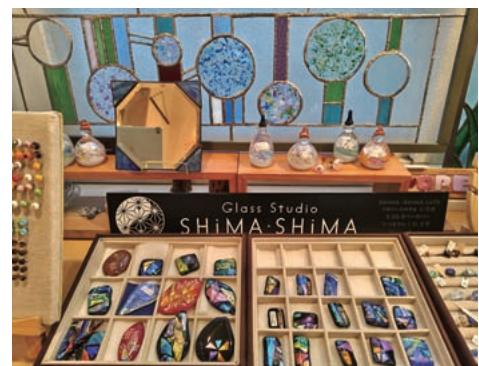
ガラス棒をガスバーナーで溶かしながら形を整え、「泡しずく」が出来上がります。この空のような海のような、青と泡のしづくのやすらぎを表現した「泡しずく」ペンダントも人気がある作品です



女性に好評のラベンダーシリーズ
癒し力の高いラベンダーカラーのピアス・イヤリングやネックレスなどのアクセサリー



店内は、ブローチやピアス・イヤリング、ガラスのペンダントにアロマオイルを入れ、胸元で優しく香るアロマペンダント、誕生月のラッキーカラーのペンダントなど豊富な手作りのガラスアクセサリー・雑貨が並べられています



年齢とともに老眼が進み、細かな作業がいつまでできるかという不安もありますが、手先を使い続けることが「ボケ防止」と前向きです。周囲には年齢を長く続けたい。仕事は楽しくないけれど続けられない」と言い切り、自分の工房を「秘密基地」と呼びながら、楽しさを最優先に日々の制作に向き合っています。取材からはこの工房は、單にガラス作品を販売する場所ではなく、自身が学び続け、好きなく、作り手が販売する場所であります。

○秘密基地

工程自体を楽しんでいる様子が伝わってきました。また、平取町の鈴蘭鑑賞会でアクセサリーを販売した際に見つけたアイヌ文様に関する工程が高まり、「アイヌ文様は複雑ですが、できる範囲で型に起こし、その奥深さをガラスで表現してみたい」と、ガラスに応用できる様々な物とコラボしたナル作品制作にも挑戦しています。

○オリジナリティ



Glass Studio SHiMA・SHiMA
住 所：小樽市奥沢3丁目27-25
電話番号：0134-31-2421
営業日：ガラス製作や物産展出展等により、不定期のためホームページ内の営業日カレンダーをご覧ください。



ホームページ

「小樽といえば吹きガラスのイメージが強いけれど、それ以外に写し取る作業は、集中力と根気が必要な細密な仕事ですが、その工程自体を楽しんでいる様子が伝わってきました。また、平取町の鈴蘭鑑賞会でアクセサリーを販売した際に見つけたアイヌ文様に関する工程が高まり、「アイヌ文様は複雑ですが、できる範囲で型に起こし、その奥深さをガラスで表現してみたい」と、ガラスに応用できる様々な物とコラボしたナル作品制作にも挑戦しています。」

○小樽ガラスを盛り上げたい

「小樽といえど吹きガラスのイメージが強いけれど、それ以外に写し取る作業は、集中力と根気が必要な細密な仕事ですが、その工程が高まり、「アイヌ文様は複雑ですが、できる範囲で型に起こし、その奥深さをガラスで表現してみたい」と、ガラスに応用できる様々な物とコラボしたナル作品制作にも挑戦しています。」